



From
the People of Japan



SEEDS Asia

Bangladesh

外務省 日本NGO連携無償資金協力
「北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力向上支援事業」

www.seedsasia.org

Bangladeshでの活動

事業紹介

SEEDS Asiaは2016年より Bangladeshにて活動を開始し、これまで北ダッカ市 (Dhaka North City Corporation : DNCC) を現地パートナーとして、複数の事業を実施してきました。

私たちは、防災活動を持続的に実施していくためには体制づくりが非常に重要だと、 Bangladeshの地方自治体や市民との活動を通して実感しました。そこから、活動地のコミュニティが自立して活動を継続できるよう、現地での防災の仕組みづくりや地縁団体との活動を通じ、外部からの支援がなくても継続できる防災の実現に力を入れています。

9,718人の直接受益者 (学校教職員、児童生徒、保護者、地域住民)

60,559,853人の間接受益者 (北ダッカ市民)

- ✓ プロジェクト名：北ダッカ市 (DNCC)
- ✓ ドナー：日本外務省 (日本NGO連携無償資金協力事業)
- ✓ 目指すこと：学校を中心とした地域の災害対応における協力体制のモデルができ、市民の防災意識が向上する
- ✓ 実施地域： Bangladesh人民共和国 北ダッカ市
- ✓ 期間：2020年3月1日～2022年2月28日 (2年間)

現地パートナー

- ✓ 北ダッカ市 (DNCC)
- ✓ モデル校の学校運営委員会、地域住民
- ✓ Bangladesh防災局
- ✓ Bangladesh消防市民防衛局
- ✓ 中等高等教育局



SEEDS Asiaについて

団体紹介

SEEDSはSustainable Environment and Ecological Development Society、「持続可能な環境と生態系に配慮した開発」を意味し、SEEDS Asiaは災害に負けない持続可能な社会を目指し活動する防災専門のNGOとして、2006年に神戸で設立されました。

1995年の阪神・淡路大震災で得た災害教訓と知見を神戸からアジアへ伝えるべく、 Bangladeshをはじめ、インド、パキスタン、モルディブ、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、フィリピン、日本でプロジェクトを実施し、経験を蓄積してきました。

特にコミュニティ主体のアプローチを重視し、学校を中心とした地域の防災力向上や、子どもに焦点を当てた防災を主な活動の一つとしています。

SEEDS Asiaの強み

- ✓ 防災/環境教育・啓発
- ✓ 防災教育・啓発ツールの開発
- ✓ 防災研究・調査促進
- ✓ より安全な建設の推進
- ✓ 防災指導員育成
- ✓ 防災管理体制強化・促進
- ✓ 緊急支援・被災者支援
- ✓ コミュニティ防災支援

SEEDS Asiaのミッションは、最も脆弱な立場にある人々に、命、まち、暮らしを守るための適切な手段や技術、知識、スキル、そして他者とのつながりをもたらすことです。

活動① 学校防災力を高める 防災管理と防災教育

モデル校にて教員や生徒、保護者の防災知識向上を支援すべく、学校防災委員会を結成します。SEEDS Asiaの支援のもと学校防災計画を策定し、実践を進めます。

活動② 地域の防災拠点としての インフラ整備

校内に雨水タンクを設置し、学校・地域コミュニティ、そして一人ひとりの衛生状況の改善だけでなく、火災時の消火に用います。

活動③ 全市的な防災意識啓発

ダッカで多く発生する災害に焦点を当て、北ダッカ市全体の防災意識の向上を目指します。



雨水タンクの活用イメージ

これまでのプロジェクト

バングラデシュでのこれまでの活動



16 防災コミュニティ | 40 防災リーダー | 1 防災ネットワーク

バングラデシュにおける都市部のコミュニティ防災力向上支援事業

2016年4月～2019年4月/JICA草の根技術協力事業

都市部の住民が災害リスクを理解し、自助・共助の能力を身に付け災害から身を守るよう、北ダッカ市とともにコミュニティ防災事業を実施しました。地域住民が当事者意識を持ち、日頃の生活に防災活動を取り入れることを目指しました。

災害対応ウェアハウスの活用強化支援事業

2019年6月～12月/世界銀行都市強靱化事業

世界銀行による都市強靱化事業の一環で、北ダッカ市内に設置された災害対応ウェアハウスの利用に関する市職員の災害対応研修を行いました。



429 北ダッカ市職員を研修

北ダッカ市における住民の災害対応能力向上事業

2020年1月～2020年3月/三井住友銀行ボランティア基金

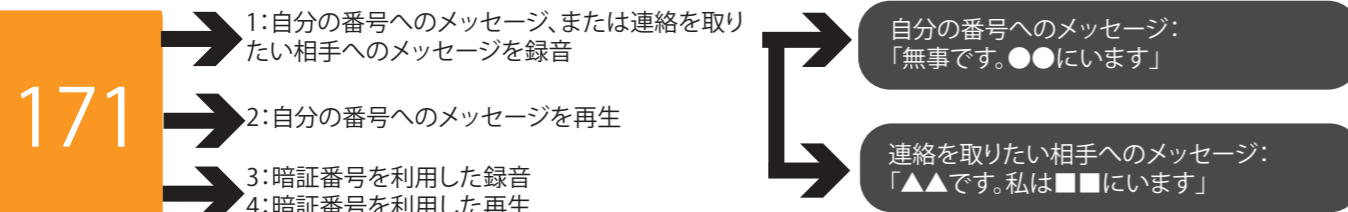
JICA事業を通じて生まれた防災コミュニティネットワークDurjoge Amraa Urban Platformと現地BRAC大学をパートナーに、地震や火災リスクの理解と災害対応能力向上を目指すプロジェクトを実施しました。火災が多発するスラムにて、若者向けの防災啓発を行いました。



25 ユースボランティア | 250 世帯

詳細はwww.seedsasia.orgからご覧いただけます。

新の災害情報を入手し、緊急時に迅速な対応ができるよう緊急連絡先を控えておきましょう。日本では、災害時に安否確認の連絡のため電話回線が混み合うことが予想されます。その場合、「災害用伝言ダイヤル」にて自分の番号宛の電話への返答を録音できますので、使い方を覚えておきましょう。

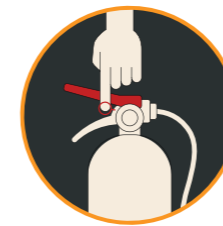


詳しくは「171 電話」で検索を。防災イベントの日などに体験利用をすることができます。

火災・地震から身を守るために

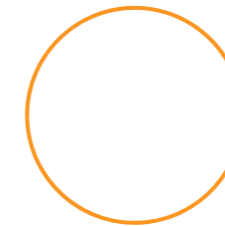
消火器の使い方

消火器は、必要な操作“PASS - Pull (引く)、Aim (狙いを定める)、Squeeze (強く握る)、Sweep (左右に振る)”を憶えると簡単に扱うことができます。一般的な消火器はこれらの操作だけですが、ものによっては異なる使用方法のものもあります。消火器に記載されている使い方を確認しましょう。また、消火器を使用する前に、消防局への通報を忘れずに！



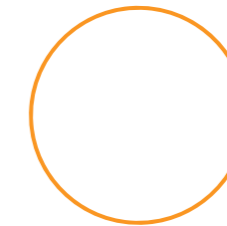
PULL (引く)

安全ピンを引き抜く：
封印シールがはがれます



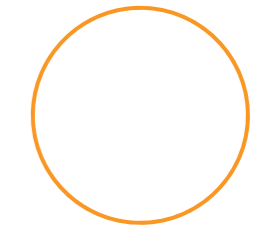
AIM (狙いを定める)

ノズルを火元の
低い位置に向ける



SQUEEZE (強く握る)

レバーを強く握って
噴射する



SWEEP (左右に振る)

火の根元を掃くように
ノズルを左右に動かす

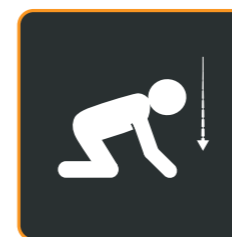
消火器を使用するには、安全対策も欠かせません。最初に火災の規模を把握し、火が大きすぎて制御できない場合は、直ちに建物の外に避難し、安全を確保してください。火が小さく、消火・制御できる場合は、引き続きPASSに従って消火してください。

消火の際は、必ず風上に立ち、ノズルを自分と反対方向に向けて消火器を持ちましょう。火が強くなった時に避難できるよう、出口が背後に来るように立ちます。

シェイクアウト訓練（屋内にいる時の地震対応）

地震は予期せず発生し、走ったり這って動いたりできないほど激しい揺れのときもあります。屋内にいる時に地震が発生したら、直ちにDrop (しゃがむ)、Cover (頭を守る)、Hold On (動かない、何かにつかまる) で身を守って下さい。日頃からこれらの動きを練習しておくことが大切です。家、職場、学校でDrop - Cover - Hold Onを実践し、地震の際に迅速に行動できるよう備えておきましょう。

*落下物の危険がない開けた場所にいる時は、Drop - Cover - Hold Onをする必要はありません。



DROP

その場で手と膝を床につけます。この姿勢をとることで、転倒を防ぎ、揺れがおさまった時に低い姿勢のまま近くの安全な場所まで這うことができます。



COVER

頑丈なテーブル・机・柱が近くにある場合は、這ってその下または横に移動します。ひざまずいたまま、身体を曲げてお腹を守ります。



HOLD ON

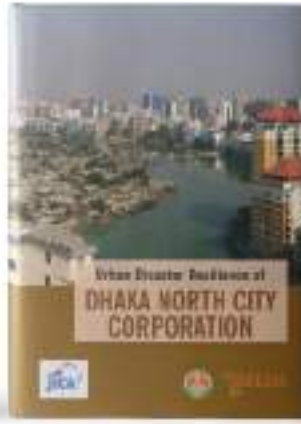
机などがある場合：片手で脚などにつかまり、一緒に動けるようにします。机などがない場合：両腕と手で頭と首を守ります。

これまでの活動成果

成果物を通じた知見の共有



防災まちあるきマニュアル



都市災害リスクアセスメント
調査レポート



コミュニティ防災マニュアル



Tell Us Your Story
ジャーナリストが見た防災



Nagar Pratyasha
北ダッカ市の防災にまつわる変遷



北ダッカ市初の広報誌

SEEDS Asia
バン格拉デシュ事業



◀ YouTubeにて北ダッカ市における活動をまとめた動画をご覧ください

連絡先

住所 〒658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307

電話 078 766 9412

Email rep@seedsasia.org

Facebook www.facebook.com/SEEDSASIA

ホームページ www.seedsasia.org